

長野県建築士会
佐久支部

らくし又

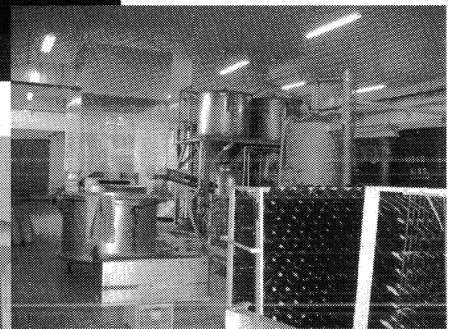


佐久の蔵元

—幸せな心地よさ—
伴野酒造株式会社
佐久市野沢123

創業明治34年（1091年）
日本酒本来の優しさ、米の
生きた味わい、体に染みわ
たる旨さ、飲んでいただい
た方と永いお付き合いので
きるお酒を目指します。

蔵元ながらのこだわりの
酒粕入浴料や石鹸も開発、
販売しています。



支部長あいさつ	2
課長のあいさつ	3
事業中間報告	4
会員活動報告	5~6
ウッドクラブ事業報告	7
「いばらき大会」研修旅行	8
文化賞の現場見学会	9
特別寄稿	10~12
着任挨拶	13
新入会員の声	13
事務局より	14

モクジ

新年のご挨拶

(社) 長野県建築士会佐久支部

支部長 **重田 元一**



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては穏やかな中にも新年を凛とした気持ちでお迎えの事とお慶び申し上げます。

会計が本会に統合され1年9ヶ月が過ぎた訳ですが、皆様の協力により協議会で決定されました事業及び活動目標は予定通り進行している事に対し改めて御礼を申し上げます。

本会では、25年度へ向けて会員増強プロジェクトメンバーの決定、各支部代議員の決定又支部1名選出の役員選考委員等が決まりました。

去る12月7日理事会において、25年度の会費24,000円が決定される予定で有りましたが、理事の中より異論が二、三、出たため、2月の理事会に持ちこされる事になりました。佐久支部の意見としては、会費を上げる事で、会員が減るダメージの方が多いので現状のままでよいと申し上げておきました。

一般法人移行の件ですが予定として25年3月中旬の移行認可を要望25年4月1日に、旧法人の廃止について登記。新法人設立登記に向けて書類を提出済みです。

支部の財政面で特に協力費は、25年度より全支部もらわないと言う事ですので目立つのはそれ位です。現状の会費で行くとしても少し切り詰め、工夫をすれば24年度並みの事業活動は出来ると思います。

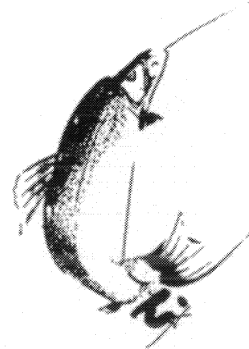
青年女性委員会が県の『元気づくり支援金』

を受けて今行なっている『佐久穂町の既存近代建築物再考によるまちづくり～景観保全及び活性化事業』については、昨年12月3日の信濃毎日新聞の社説に載ったことから、本会でも高く評価されました。

このように15支部の中での事業活動は他支部に勝るとも劣るものではないと信じています。会費は現状のままで、新法人に移行しても佐久支部らしさを見失わず今まで通りの活動をして行こうではありませんか。

25年度は、役員改選となり新しい役員にバトンタッチされます。本会の方は改革を急ぐ気持ちが見られますが各支部とも良く話し合い会員1人1人のためになる運営をしてもらいたいものです。

新しい年が始まりました。今年こそ政治も変わり経済状況も良くなると共に会員の皆様の更なるご発展を心よりご祈念申し上げまして新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

長野県佐久地方事務所

建築課長 **矢澤 博**



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は県の建築住宅行政を始め、県政全般にわたり格別の御理解と御協力を賜

り厚くお礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

最初に、経済指標の一つである新設住宅着工戸数については、対前年比（4月～10月）県全体で4.4%減のところ、幸い佐久管内は4.8%増となっております。

また、統計が出ている最新10月の対前年比は、国、県、佐久管内とも10%超の増となっておりますが、経済状況は依然として厳しい状況にありますので、今後もその動向を注視するとともに、一日も早い経済・雇用状況の好転を期待したいと思います。

さて、現在県では、平成25年度を初年度とする新たな総合5ヶ年計画を策定しています。少子高齢化の進展など、時代が大きく変革する中で、計画の基本目標である「確かな暮らしが営まれる美しい信州」の実現に向け、選択と集中により、各般の施策を進めてまいります。

建築・住宅関係につきましては、既存建築物の耐震化を促進する住宅・建築物耐震改修促進事業や、県産木材を利用した信州型エコ住宅・環の住まい整備推進事業、信州型住宅リフォーム促進事業など、良質な住生活の確保と、地域経済の活性化の施策を引続き推進してまいります。

また、昨年5月に発生した広島県福山市の

ホテル火災や、12月の複数のエレベーター事故は、常日頃の的確な施設の維持・管理の重要性を再認識したところであり、定期報告制度の徹底などにより、建築物の安全対策を更に推進しなければならないと考えております。

平成19年の新潟県中越沖地震、一昨年の長野県北部地震では、多くの建築士の皆様に被災建築物応急危険度判定をお願いしました。何時どこで発生するかわからない大規模地震に備え、昨年11月には小諸市で、青年・女性委員会（東信ブロック）等が中心となり、応急危険度判定の模擬訓練が行われました。模擬訓練は災害時における迅速かつ的確な判定活動にとって大変有意義であり、今後もぜひ継続していただきたいと思っております。

一方、東日本大震災を契機とし、新エネルギーの研究・開発の取組みも一層強化、推進されています。昨年7月には太陽光発電などの再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度も施行されました。

このような中、住宅・建築物の省エネルギー化を促進するため、「都市の低炭素化の促進に関する法律」が昨年9月に公布され、12月の施行に併せ、低炭素建築物新築等計画の認定制度が創設されました。

本制度については、施行されて間もないこともあり、今後制度の周知を図ってまいります。

建築基準法や省エネ関連法など建築物に係る法令が大きく改正等される中で、建築士の皆様には、建築の専門家としての優れた知識と経験を生かし、建築物の安全・安心を確保していただくようお願い申し上げますとともに、地域社会の発展に一層貢献していただきますようご期待申し上げます。

先行き不透明な時代ではありますが、今年こそは明るい年になるよう期待するとともに、(社)長野県建築士会佐久支部の益々のご繁栄と会員の皆様の大きい飛躍を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成24年度 事業中間報告

月 日	行 事 名	場 所
7. 4	県社会貢献委員会	長野県建築士会館
7. 5	東信ブロックゴルフコンペ	望月カントリークラブ
7. 5	第4回支部制度研究特別委員会	佐久勤労者福祉センター
7. 7	第3回情報広報委員会	佐久グランドホテル
7. 12	第2回CPD・専攻建築士制度運営委員会	佐久市研修センター
7. 13	新入会員歓迎会及び青年女性委員会活性化会議	かつ栄
7. 18	第2回社会貢献委員会	佐久市研修センター
7. 25	第1回三役委員長会議	かつ栄
7. 26	水周りリフォーム施工事例講習会	佐久勤労者福祉センター
7. 26	施工管理技士対象CPD制度説明会	佐久勤労者福祉センター
7. 30	県CPD・専攻建築士制度運営委員会	長野県建築士会館
7. 31	第1回青年女性委員会	野沢会館
8. 4	第11回佐久地域建築文化賞受賞作品見学会	佐久管内
8. 6	第5回支部制度研究特別委員会	野沢会館
8. 21	第3回社会貢献委員会	佐久市研修センター
8. 24	御代田軽井沢地区講習会	軽井沢商工会議所
8. 24	地盤調査と改良方法講習会	佐久勤労者福祉センター
8. 30	県三役会	長野県建築士会館
8. 30	第3回CPD・専攻建築士制度運営委員会	佐久市研修センター
8. 31	第2回実務講習会	佐久勤労者福祉センター
9. 3	東信ブロック連絡会議	有賀技研事務所
9. 4	三団体親睦ゴルフコンペ	佐久平カントリークラブ
9. 6	第2回総務企画委員会	佐久勤労者福祉センター
9. 7	県社会貢献委員会	長野県建築士会館
9. 9	建物清掃ボランティア活動	旧黒澤食品工業
9. 14	第2回三役会及び第2回幹事会	佐久市研修センター
9. 18	第4回社会貢献委員会	佐久市研修センター
9. 20	本会との打合せ会議	佐久合同庁舎
9. 21	防水改修に関する講習会	佐久勤労者福祉センター
9. 28	第3回実務講習会	佐久勤労者福祉センター
9. 29	建築士フォーラム2012in安曇野	安曇野市
10. 1	代議員立候補届受付	佐久合同庁舎
10. 11~16	建学会(県庁免震工事)	長野県庁
10. 13~14	親子でつくるろ！ウッドクラフト	イオン佐久
10. 19~20	全国大会及び建物見学会	茨城県
10. 26	県ゴルフ大会	高森カントリークラブ
10. 28	建築士ネットワーク佐久2012	佐久グランドホテル
11. 6	佐久南インター景観をつくる会片付作業	桜井・岸野地区
11. 8	建築基準法改正等に関する講習会	佐久勤労者福祉センター
11. 10	ウッドクラフト・建築士ネットワーク合同反省会	かつ栄
11. 15	第6回支部制度研究特別委員会	かつ栄
11. 16	第4回情報広報委員会	佐久グランドホテル
11. 17	応急危険度判定模擬訓練	小諸市
11. 19	第2回青年女性委員会	佐久グランドホテル
11. 24	第5回情報広報委員会	佐久グランドホテル
11. 25	八千穂中学校景観授業	八千穂中学校
11. 29	県三役会	長野県建築士会館
11. 30	第4回実務講習会	佐久勤労者福祉センター
12. 7	県理事会	松本市
12. 11	本会により会計説明(東信ブロック)	上小地方事務所
12. 12	第3回三役会及び第3回幹事会	佐久グランドホテル
12. 14	第5回実務講習会	佐久勤労者福祉センター

建築士ネットワーク・佐久2012次第

- 日時 平成24年10月28日(日) 午後1時30分より
- 場所 佐久グランドホテル(佐久市中込)

- 1) 開会
 - ・開会の辞
 - ・綱領朗読
 - ・建築士の歌斉唱
 - ・支部長挨拶
 - ・来賓祝辞
 - ・来賓ご紹介
- 2) 委員会発表 (青年女性委員会)
- 3) 技術研修会：「武士の住まいと士官官舎～そして現代へ」
 - ・講師：文化庁認定上級技術者 永川 強先生
- 4) ストレッチ体操
 - ・公益財団法人身体教育医学研究所
- 5) 文化講演会：演題「民家の今後はどうあるべきか」
 - ・講師：(株)降幡建築設計事務所 所長 降幡廣信先生
- 6) お礼の言葉
- 7) 閉会
 - ・閉会の辞



技術研修会

「武士の住まいと士官官舎～そして現代へ」

講師：文化庁認定上級技術者 永川 強 先生

建築士ネットワーク・佐久2012の技術研修会は、2010年に続き永川強先生をお迎えして、講義をしていただきました。

先生は、重要文化財の保存復元の専門家であり、長野県内でも妻籠宿本陣新築復元工事設計監理、松本城太鼓門新築復元工事設計監理など多数の工事の設計監理をてがけられております。



前回「木と鉄と日本文化」の講義の中で、釘の話は興味深く、本格木造建築は釘なしでは造り得ないのであって、五重の塔に使われている釘の量が2トンにもなるのお話は、驚きでした。先生は、今回「住まい」をテーマにあげられ講義していただきましたが、城郭でもなく社寺建築でもなく人間の住まいである住宅建築が一番好きとのことで、武士の住まいから現在への延長線のなかで建築を考えた時、何らかのヒントになればとのお考えからこの題名にされたとの事でした。

まず、武士と士官についての解説では、武士の起源は平安時代までさかのぼり当時の武士は、芸人であり、武芸をもって朝廷に仕えていた。その最たる芸が、馬上弓術で「やぶさめ」として現代まで傳承されている。近世の武士は軍人であると共に役人、もしくは官僚であり、士官とは明治以降近代国家になってからの武士で、昭和20年太平洋戦争の終戦まで続いた。その間1000年以上続いたわけで、士官の手紙等から推測できる彼らの心はまさに侍とのことでした。

武士住宅の始まりは、法住寺殿（後白河法皇の邸宅）で、いわゆる寝殿造りが元で、平安、鎌倉、江戸時代へと続く住宅図の解説をしていただきました。そして明治新政府になってからの士官官舎の解説では、外観は洋風でも、平面は和風の建物であり、間取りという視点からは、武士住宅とあまり変わらない。

最後に近代の都市住宅では、森鷗外、夏目漱石旧宅（明治20年頃）について解説いただき、大正になると中廊下のプランがでてきており、昭和26年の森於菟博士の家（設計、清家清氏）では、LDKの出現で斬新なプランになっている。

先生の、長年の調査研究が元になるお話をまだまだお聞きしたいところでしたが、1時間30分の講義時間となってしまいました。次回また、ご講義いただける日を楽しみにしております。

櫻井 和也

文化講演会

「民家の今後はどうあるべきか」

講師：降幡廣信 先生

建築士ネットワーク・佐久2012の文化講演会にお迎えした降幡先生は民家再生の先駆者として全国で古民家の調査・設計監理を手掛けられ、1990年日本建築学会賞も受賞された信州の誇る建築家であります。



前半は「民家の生い立ち」として縄文時代から近代にいたる民家発展の過程に触れられた。寒冷地ほど土間を広くとり、また土間があっちはじめて床が生きるとの説明には、自然環境や生活（営み）を通してその土地固有の民家を生みだした先人の知恵をひしひしと感じさせられた。萱葺きを長持ちさせるために小口を見せない寄棟が主で、小屋裏利用の明かり取りの工夫

から多様な形態が現れ、時代を経て誰もが満足できる普遍の美しさを獲得したといえるとのお話。具体例として白川郷の合掌造りは、平地の少ない山間で建坪が広くとれない制約の中、養蚕のための床を小屋裏多層に確保し、豪雪にも耐えるには必然とも言える形・・・最も安全で使いやすい家になっているのであると。

草間さんの家

本格的な民家再生の第一号となった草間邸は文政時代の本棟造りの石置き屋根で、古いところは元禄時代の部分もあり「かろうじて生きています」という重病の民家（290歳の家）であった。かつての大庄屋も今は雨漏りになすすべもなく、薄暗い空間で老夫婦二人が暮らしていた。このまま見過ごすことはできない。

建築に携わる者として重荷を背負ったまま自問する日々を過ごしていたが、実家に入られる息子さん夫婦の決断で、今まで経験したことのない手探りの再生工事に取り組むこととなった。

「残したい」と家主さんが願うほどの家であるならばそれをかなえてやれる建築家でありたい。

「再生」・・・再び生まれ変わらせればいいんだ。それなら私にもできるはずである・・・。古いものに安らぎを覚え、それを大切にしたいという一家の信頼を得て工事は順調に進んだ。解体してみると、どんなふう而建てられていたのかが、逆に見えてくる。再生なった部屋は明るさを取りもどし、見上げれば文政時代の梁が力強い意匠となって歴史の真実を伝えてくれる。

1929年旧三郷村生まれの降幡先生は当年83歳。これまで手掛けた民家再生は300余棟。残り4県で実現させれば全都道府県制覇になるとのこと。村野藤吾さんの歳を超える94歳までは現役を貫くことを目標にされているとのお話を聞き、敬服すると同時に益々のご活躍をと願わずにはいられない。

後記：遅まきながら拝読した『古民家再生ものがたり』（晶文社）には、愛着ある古屋を壊す気持ちになれず、思案の末に降幡氏へ手紙を書き送ったり、一家で信州を訪問したりする幾人もの家主のものがたりが、清々しい文章と写真で紹介されている。草間邸再生にあたり〈再生工事の五カ条〉として掲げた基本姿勢は今も変わってはいないという。清家清氏の奥様の実家を設計されたエピソードも楽しめた。古いものは本物であり、本格的なものは美しい！お薦めの一冊です。

上原 明彦

「第6回 みんなで作ろう!! ウッドクラフト」事業報告

社会貢献委員長 山田 功

10月13、14日の2日間、イオン佐久平店にて「みんなで作ろう!!ウッドクラフト」を開催致しました。今回で第6回を数え、多くの参加者を得て、無事終えることが出来ました。

内容としては、昨年と同様に巣箱・CDラック・花台・イスにアキレス腱伸しを加えて5種類の製作コーナー。ここは、本来は子ども同伴の方の参加を条件としたいのですが、昨年からは有料とした事で、大人だけの参加もよいことになりました。

ホットボンドを使用して木の枝や木の実を接する、自由な工作コーナー、ふくろうの形の



木切れに顔などを描くコーナーは、子どもとともに楽しんでいただける場所です。

製作コーナーは、巣箱、CDラックは30台、花台とイスは55台ずつ、新たにアキレス腱伸し18台を加え、合計で188台を用意しました。昨年度から製作するものを有料としたことで、売れ残りが出てしまったことを反省し、デザイン、材料費、加工・組立のし易さを委員会で見直しを行いアイデアを出し合い今回に臨みました。また毎年、材料加工に協力していただく方にご負担をかけてしまっていることに配慮して、新たに小諸地区から3名の方々に協力していただきました。

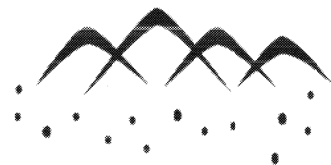
ホットボンドコーナーは、今年も材料集め等



の準備を青年女性委員会に協力していただきました。また、ふくろう工作コーナーは井出陽治さんに材料から加工まで協力していただきました。

建築士会の広報コーナーとして、本会事業の「私の景観」コンテスト入賞作品の展示、青年女性委員会活動で知事表彰を受けた「ねむの木植ロード」を紹介するパネルの展示、「あなたの夢のおてつだい こだわりの家づくり」のキャッチフレーズを入れた、建築士会佐久支部の名入りのポケットティッシュの配布など「建築士会」を広く紹介することが出来ました。

最後に材料加工にまた、参加して下さった方々に、この紙面をお借りしお礼申し上げます。



第55回 建築士会「いばらき大会」及び視察研修の旅

第55回建築士会全国大会「いばらき大会」が10/19日～10/20日、「常陸の国」茨城県水戸市で開催されました。今回は茨城県内の視察を兼ねた研修旅行ということで、佐久支部では総勢23名が参加しました。

いままで茨城県方面に行く場合、埼玉・東京方面からのルートが最短のように思えましたが、現在では最初の視察地桜川市真壁地区には3時間弱で到着し、あまりの短時間で驚きました。

真壁は、江戸時代から明治・大正にかけて、この文化・産業の中心地として栄え隆盛を誇った商家の人たちが次々と蔵や門などを建てて300余りを数え104棟が現在、国の登録有形文化財登録を受けている歴史ある建築物が残る町です。

次に水戸の偕楽園では、100種3000本の梅が植えられた中に徳川斉昭公によって休憩所とし



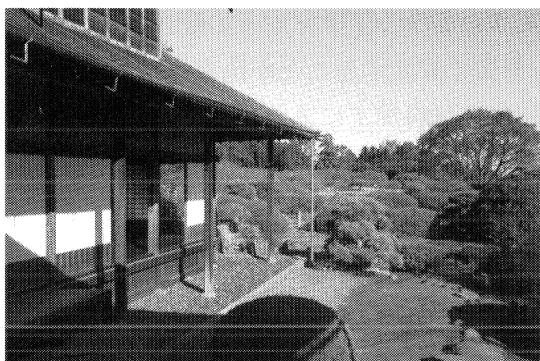
会場：茨城県立県民文化会館



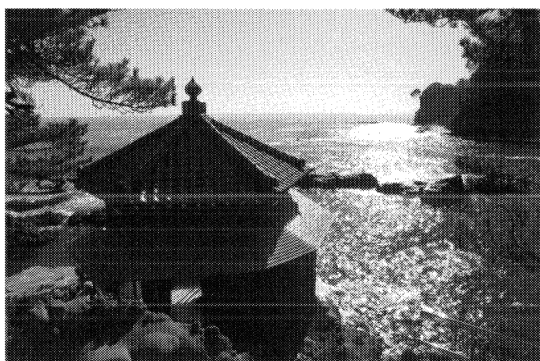
桜川市真壁地区



2012日本建築学界賞受賞
設計者：渡邊真理 / 木下庸子
真壁伝承館



水戸：偕楽園



岡倉天心：六角堂

て建てられた好文亭を見学、建物からは梅園や千波湖が一望でき景観のすばらしさに感動しました。

その後、いばらき大会の会場、県民文化会館へ。午後3時より大会式典が1500名収容の会場に、3000名余りの全国からの会員で盛大に行われました。

宿泊地は北茨城市の五浦温泉で、福島県と隣り合わせの市です。やはり昨年の3.11の震災の爪あとがいたるところに残り地震・津波のすごさを感じ、想像することすら恐怖に感じました。

二日目は、ホテルより歩いてすぐの岡倉天心が建てた六角堂を見学しました。六角堂は岡倉天心の別荘（アトリエ）として建築されたそうです。天心は明治の近代日本の美術行政に尽力した人で、日本美術院を再編し、横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山をこの地に呼び日本面の近代化を目指した美術活動を指導した人です。

尚、今ある六角堂は今年4月に再建された建物です。東北地方太平洋沖地震とそれに伴う10mの大津波により六角堂は土台を残して流失してしまいました。

この歴史ある六角堂を復興させようと茨城大学や茨城県建築士会他の方々の想いと努力で再建されたとのこと同じ建築に携わっている者として建物に対する想いと情熱に感銘を受け、感謝をしたい茨城の研修でした。 竹花 彰男

第11回

佐久地域建築文化賞
受賞作品見学会に参加して

依田 絵美

8月4日（土）佐久地域建築文化賞受賞作品の見学会に参加しました。

小諸市を代表する建築士 甘利享一さんの設計した建物を見学できるということで、以前よりとても楽しみにしていました。

■最優秀賞 八満の家

浅間山麓の南側傾斜地に、1階壁式RC造、2・3階は木造の洗練された都会的な建物が現れました。

屋上テラスとした駐車場の脇のアプローチを通り、シンボルツリーの楓を囲む弓型の階段を登ると玄関ホールへ、そしてLDKを施主様のご厚意で見学させて頂きました。LDKより、田畑越しに八ヶ岳連峰が望める見事な景色でした。内部の小屋組みがあらわしになっており、木の素材の良さを感じる事が出来る空間になっていました。

軒先や内部の階段・スロープがアールになっており、随所にあたたかみを感じるデザインが盛り込まれておりとても勉強になりました。

■優秀賞 五角筒の家

五角形の筒がアクセントの木造2階建の家が、目の前に現れました。版画家の施主様ご夫婦が笑顔で迎えてくれました。

ウッドデッキテラスを通り、エントランスには囲炉裏とベンチがあり、お客様と会話の弾む空間になっていました。

リビングを通り階段を登ると、四季の素晴らしさを感じる事ができる、吊構造の五角形の空間が東西に連なっていました。

高窓から柔らかい光が入るギャラリーには、版画作品が展示してありました。

天井のあらわしの垂木が連続し内部の空間のアクセントになっており、木に包まれている安

心感がありました。

■優秀賞 みはらし交流館

無垢の木が全面に貼られた、切り妻屋根のシンプル建物が現れました。バリアフリーの玄関を抜けると、丸太の梁が連続する多目的に使える研修室が3室ありました。広い調理室・ピザ窯・かまど・シャワー室もあり充実の施設となっていました。

県産材をふんだんに使い、無垢の木のあたたかい雰囲気に加え、南の窓から見える八ヶ岳をはじめとする山々の眺望もすばしかったです。この施設を拠点に、糠地地区の農業振興や地域活性化が発展し、また、農業体験を通じて農村と都会の交流を深める拠点となる建物だと感じました。

どの建物も、木をふんだんに使い、あたたかみがあり、使う方の立場にたったプランになっていました。

また、構造とデザインが融合していて、建物に包まれている安心感をあたえる建築になっていました。

見学会に参加し、すばらしい建物を実際に見ることができ本当に良かったです。

八満の家・五角筒の家では、施主様と甘利先生と一緒に案内して頂きました。

既に住んでいる家を、私達の勉強の為に見せていただいた施主様には、感謝でいっぱいです。

また、このような機会をつくって頂いた、甘利先生・長野県建築士会佐久支部の皆さま、本当に有難うございました。



特別寄稿

「住まい」を思う

長野県建築士会名誉会長 出澤 潔

「住まい」の在り様に何か違和感を覚えて数年になります。そして、ここ数年の「住まい」を取り巻く社会の動きは、私の「住まい」への価値観にある種の戸惑いを与えます。

この戸惑いは、私のささやかな見聞を私個人が勝手に理解し、苛立っているだけなのかも知れません。ですので、公のこのような場で告白するのではなく、徳利片手に話し合う方が良いでしょうにも思うのです。でも、このような考え方もあるという事をお伝えして、皆で考えて欲しいとも思うのです。

空虚で形ばかりの空間構成、ファッション化した軽薄な形態、そして環境性能を声高に叫ぶ「住まい」の群れが街に溢れて久しくなります。エネルギー議論の高まりと共に建築の省エネ手法に議論が集中しその数値が「すまい」の価値観の中で重要な位置を占めるようになりました。そして、それらの数値は強い説得力で「住まい」の価値を私達に伝えます。

私はここで戸惑ってしまうのです。

だって、「住まい」には数値で計ることの出来ない大切なものが他にもある筈ですから。私は「住まい」は人間(動物)を人に育てる場所だと思っています。つらい事、淋しい事、悲しい事、楽しい事、などなど沢山の体験や思い出から知恵を受け、心が育まれ、人になる場所が「住まい」だと思っています。「すまい」が持つ様々な場(スペース)で人は人の愛に包まれて成長するものだと思っています。でも、そういったものを数値で示す事はとても難しく、説明し理解を得ることは難しいことのように思うのです。

私は「住まい」の価値を数値で示すようになった時、数値で示すこと出来ない「住まい」の価値が私達の意識から遠ざかり忘れ去られてしまうのではないかと恐れるのです。

「建築ネットワーク・佐久2012」の講演は時宜を得た素晴らしいものでした。永川強先生の「武士の住まいと現代」、降幡廣信先生の「民

家のあり方」は私達に「住まい」への思いを深めて下さり、「住まい」のこれからを強く伝えて下さったように思います。

信州木造塾が共催した信州ウッドマイスター講座では松井郁夫先生の「よくわかる木組みの家」のお話がありました。「き」組の家として有名な松井先生のお話は当然の事として木構造に関する話がメインとなりましたが「住まい」を「骨と皮」と考えた時、これからは「皮」の部分に議論が集中するだろうと指摘されたことが印象的でした。「皮」の部分、即ち壁・屋根の断熱性能に関する事です。

既に様々な形で伝えられていますが、国は13年ぶりに省エネ基準を改定し2020年度から省エネ対策として全ての建築物にこの基準を適用する事を義務化することになるようです。

長野県では地域温暖化対策条例の改正を行い、国の施策に先がけて今から2年後を目途に全ての建築物を対象にして建築物の環境エネルギー性能と自然エネルギー設備導入の可能性について建築主に説明する事を義務づけることが提案されています。

福島原発の事故を起因にして我が国のエネルギーの議論が高まっている中で、このような施策が次々と打ち出される事は当然のことであり、環境作りに関わる私達は積極的にこの事に対応すべきものと思います。そして、結果として私達も社会も「住まい」の価値をその部分に強い光を当ててしまうように思うのです。

そう思った時『「住まい」にはその様なもの以上に大切なものがあるんだ、その大切なものを「住まい」から忘れて欲しくない』と私は思うのです。

吉田五十八先生は「家見に呼ばれて、特に目立って誉める所も無いし貶す所も無い。つい良い気持ちになって長居するような住まいが住宅建築の極致だ」と私達に教えて下さいました。吉村順三先生は「心地良さ」を口癖のように私達に語りかけて下さいました。数値では表わせない大切な事を私達は教えて戴いています。

これからの「住まい」を私達は社会にどう説明し、理解を求めたらよいのでしょうか。

社会貢献活動

「東北ボランティア」報告

南佐久建築士会 井上 正彦

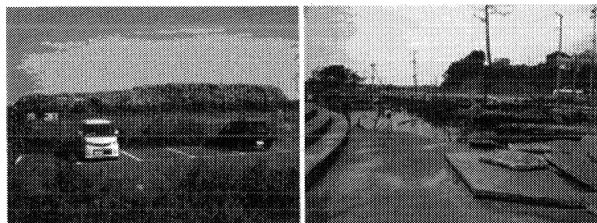
実施日	平成24年7月8日(日)
場所	宮城県七ヶ浜町
参加人数	6名
活動内容	・午前 砂浜のごみ拾い(タイヤ・木材・海藻・不明物) ・午後 砂浜進入路仮設通路作り
準備品	ボランティア保険証、長靴(底に鉄板の入った物)、防棘ビニール手袋、長袖シャツ・長ズボン(半袖・短パンは入場不可)、昼食、飲み物

7月8日のスケジュール(天気 雨のち晴)

3:00	佐久出発
7:40	七ヶ浜町ボランティアセンター着
8:45	受付開始
9:00	全体ミーティング
10:00	移動開始
10:30	作業開始(砂浜のごみ拾い)
11:45	午前作業終了
12:00	ボランティアセンターに戻り昼食
13:00	移動開始
13:30	作業開始(砂浜進入路用土嚢作り、砂浜のごみ片付け)
15:00	午後作業終了
15:30	ボランティアセンター出発
23:00	佐久着

7月8日	
酒田まで所要時間	16
ヘルパー	40
ボランティア	17
NTT-com	6
南佐久建築士会	6
ボランティアセンター	16
個人	16
計	162

南佐久建築士会では今年度の行事の一つに、社会貢献活動を選び、遅ればせながら「東北ボランティア」に行くことに理事会で決まり受け入れ先を探した。一番近い受け入れ先が七ヶ浜町だった。それでも片道5~6時間の距離を日帰りの予定で実施するには、交通事故・現地でのけが・地震等の災害等々、様々な危険を想像し



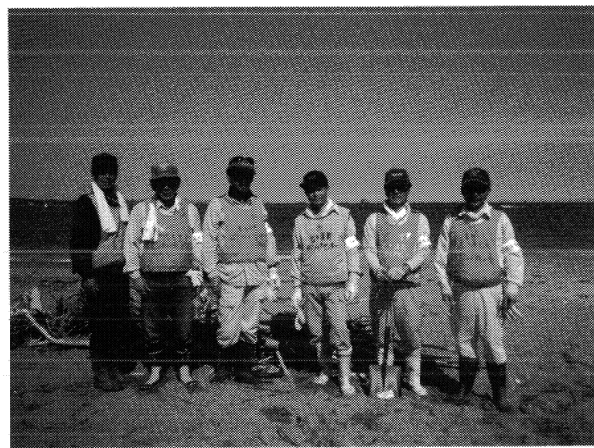
てしまい、迷いに迷った末の決断だった。そのため、募集期間が短く参加者も6名だった。

そんな不安を抱えながらの出発でしたが、明るくなる頃には雨も上がり晴れそうな気配の中で、高速道路の無料券もすんなり受け取ってもらえ順調に目的地に近づいた。

七ヶ浜町に入ると、稲の植えてある田の向こうに瓦礫の山が見えた。一部の田を瓦礫置き場にしてあったり、陥没箇所が見えたりで被災地に入ったことを実感した。作業現場のそばには布基礎だけが残る分譲地跡が有り、被害の一端がまだそのまま残っていた。砂浜を見てまた驚いた、どこからこんなに・・・と思うほど一面真っ黒だった。黒く見えたのは腐った海藻で少し臭っていた。そして説明者から「あちらのきれいな所は昨日の作業場所です。今日は大勢ですので午前中であのくらいの面積がきれいになると思います」との声に振り返るとそこは白い砂浜だった。真夏の日差しの下での活動に、ボランティアリーダーは水分補給の指示を出してくれるが、不慣れた私たちはペットボトルの処理にも困った。廻りを見るとデイバッグやペットボトルホルダーを付けたウエストバッグを用意している人たちもいた。

午後の作業は別の場所で、そこに向かう車窓からは数百メートルに及ぶ瓦礫の山や、ブルーシートで屋根や壁を覆った住宅、基礎だけ残された宅地に混じり新築住宅も数軒見えた。ニュースで見ていると実感は湧かないが、目の前の光景には迷っていた時間が悔やまれる。

こちらの砂浜に打ち上げられていた物は、午前中と違って大きな物が多かった。大型乗用車の新品タイヤ数十本、4人でやっと運んだ流木、6人では運べない流木も数本あった。直径2m近いタイヤが埋まっていたのを十数人がかりで掘



り出して波の来ないところまで運んだ若い人たちはもう1週間も来ているとのことだった。

「1週間後の海祭りに間に合わせたい」との地元の希望に少しは役にたてたと思うが、佐久からの時間と実際に活動した時間を勘案した時に、効率という観点から見れば他の方法を検討した方が良さそう。しかし、実際に被害の一端を見、260数名の人が犠牲になっていることを直接聞き、昨年までは「海開き」だったものが今年は海水浴ができないのでせめて「海祭り」でも、と頑張っているのを手伝い162人が力を合わせた成果を目の当たりにした時、効率とは比べられないものがあった、と確かな手応えを感じた。

省力化やスピード・効率を求めてかなり機械化されたが、人間の力をもっと見直すべきだと感じた。

腕章の「南佐久建築士会」の文字をみて声をかけて来る人の中には、佐久や県内出身者で懐かしがったり、出身地の者が来たことを喜んでくれた人たちが数人いた。異郷の地で暮らす人には特別な感慨があるようだった。

今回の準備をされていて一つ残念なことがあった。5月にボランティアをしてきた理事に紹介された福島県は、新規ボランティアは募集していなかったの、東北の建築士会事務局に問い合わせたところ「ボランティアの斡旋はしていません」との回答だった。仕方なく日本勤労者山岳連盟の事務局に問い合わせたら、調べて連絡をくれたので、七ヶ浜に行くことができた。法人化問題の時に感じた「本会事務局は会員のためにあるのか？」という疑問が今回のことで大きく膨らんだ。

趣味の写真のこと

小泉 正樹

この度「第2回私の景観写真コンテスト」で幸運にも賞を戴く事になり、去る平成24年9月29日に開催された「建築士フォーラム2012 in 安曇野」での受賞式に出席してきました。

私が写真を本格的に始めるようになったきっかけは、親戚の方からN社のデジタル一眼レフカメラを譲って頂いた事からでした。以前にもデジタルカメラは旧式コンパクトカメラ、一眼

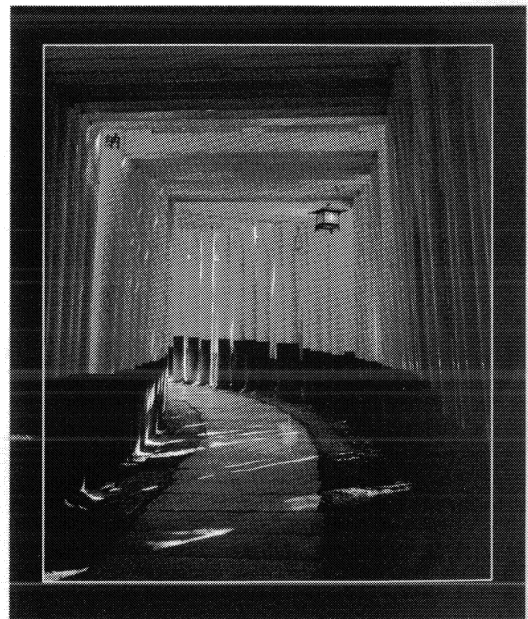
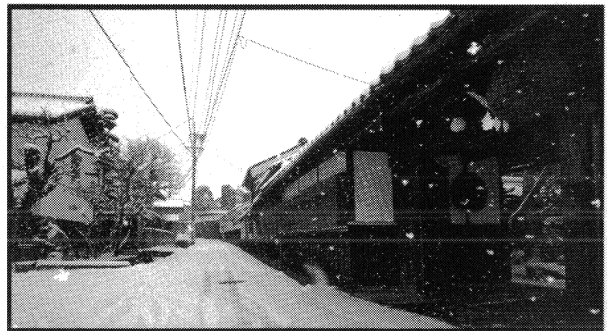
レフカメラはフィルム一眼を所有していましたが、それぞれ画素数が極端に小さな事と、現像・プリントへの負担が大きい事から、仕事上での記録写真か家族のスナップ写真を撮る以外殆ど手にする事はありませんでした。

ところが頂いたデジタル一眼レフで試し撮りした画像をパソコンで見て以来、精細な描写に大変感動し、家族写真を始め風景や季節の風物詩等様々な被写体を撮すようになりました。

翌年には腕試しのつもりで、初めて応募したコンテスト「佐久ブルーフェスティバルフォトコンテスト」で入選して以来益々写真の世界にハマってしまい現在に至っています。

今は知人から勧められた地元の「浅科写真クラブ」に席をおき、仕事柄建築写真をはじめ、ネイチャーフォト・祭り・スポーツ等ジャンルに拘らず撮影しています。

現在佐久市春日温泉の「かすがの森」(旧かすが荘)において所属クラブの創設30周年記念作品展が平成25年3月まで開催中ですので、興味のある方はご覧戴ければと思います。



着任挨拶

はじめまして

建築課 山崎 拓

4月より、佐久地方事務所建築課に配属となりました山崎拓です。佐久市（望月・浅科地区を除く）と南佐久郡全域を担当しています。昨年3月までは諏訪地方事務所建築課に勤務しておりました。

佐久地方事務所が2所目で、県職員になるまでは、東京の民間企業で、CM（コンストラクション・マネジメント）業務やマンション建替えのコンサルタント業務等をしておりました。CMやマンション建替えは同じ建築の仕事ですが、設計でもなく、施工でもない仕事でしたので、建築基準法に関わる仕事は前赴任地の諏訪地方事務所を含めてまだ4年目です。そのため、知識不足や経験不足から、皆様にご不便やご迷惑をお掛けしておりますが、早く仕事に慣れるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

出身は小諸市で、高校は合同庁舎からすぐ近くの野沢北高等学校です。ただ、大学からずっと長野県を離れていたため、佐久地域に戻ってきたのは高校を卒業して以来約20年ぶりです。懐かしさもあるのですが、20年も経つと新しい道ができ、住宅も増え、だいぶ様子が変わっており、現場検査に行っても当時の地理感覚はあまり役に立っておりません。地元とはいえ、毎日の生活でも新しい発見をしております。

佐久地域は首都圏への通勤圏で、県内でも利便のよい恵まれた地域だと思います。他の地域に比べ、経済活動も盛んで、住宅の建築も盛んのため、日々忙しく過ごしています。これからも、中部横断自動車道の延長などでさらに経済活動が盛んになることを期待しています。

建築士会佐久支部は、若手も積極的に活動しており、同世代である私にとっても良い刺激となっています。

住民の皆様が安心して暮らせるために建築ができることを、微力ながら皆様と共に考え、実行していきたいと思っております。今後ともご指導、ご協力をよろしくお願い致します。

新入会員の声

黒沢 亮一

私の趣味は、バイクでのツーリングです。イタリアのちょっとレアなバイク(1,100cc)と、アメリカのハーレーダビットソン(1,449cc)に乗っています。イタリアのバイクは、スタイリッシュで色もきれいな所が気に入っています。かなりじゃじゃ馬です。スピードを出してスカッとした時（あくまでも法定速度内です。笑）に乘ります。今は、少しは安全運転に気を付けていますので、高速道路が大好きです。とは言ってもどうしても峠を走りたくなくなってしまいますが…。

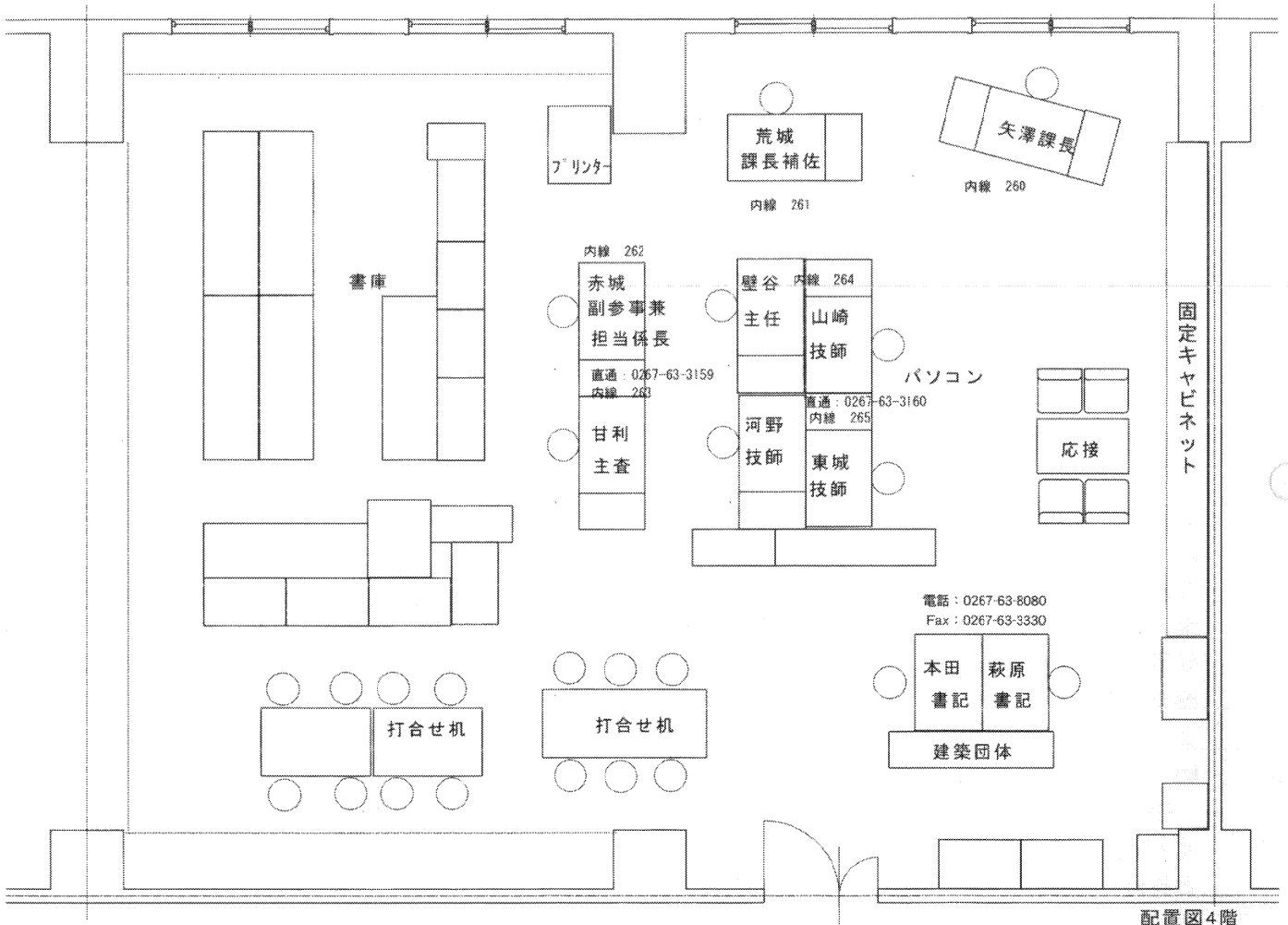
ハーレーでは、長距離ツーリングに行きます。つい数年前まで、ゆっくり走るなんてバイクの意味が無い！と思っていたのですが、友人に「景色を楽しんでゆっくり走る楽しみもある。」と言われたのがきっかけで乗り始めました。気分を落ち着け、ゆっくりと走るのも楽しいです。昨年の夏は、友人と福井県に一泊でツーリングに行きました。朝、暗いうちに出発。あちこち観光しながら走り、超のどかな海沿いの漁村の民宿に午後早めにチェックイン。時間があつたので隣の漁村まで走りに行き、地元のおばあさんや若い釣り人とお話しました。目の前を走って行く漁船に乗っているのは、おばあさんの息子さんとか。釣り人は目の前でイカを釣り上げてくれました。ツーリング先の地元の人々と話すのが楽しいです。以前、北海道に一人でツーリングに行った時も、地元の人やバイク乗りと友達になり、寂しい思いをしないで楽しかったですよ～。バイクに乗っていて一番楽しい時間ですね。

建設業ってなんとなくバイクの種類に似ているような気がします。

現場管理は、イタリアのバイクに乗っている感じですかね。思い切り良く大胆かつスピーディーに舵を取らないと進まない！もちろん安全第一で！

設計は、ハーレーのように、目標を決め、周りを見極めながらゆったりと確実に進んで行き、目的を達成する。そんな印象です。そんなわけで、つい最近1級建築士になった私ですが、建築士会に入会し、皆さんと一緒に活動し、勉強させて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。（バイク乗りの方と一緒に走りましょう。）

建築課配置図



配置図4階

● 編集後記 ●

手厚い保護を受けていた、鹿 ハクビシンは、一変して夜盗に変わった。ペットボトルに詰めた水を運んで育てたモロコシが、収穫前夜に食べられたと嘆くご近所さん、当地でも佐久穂町の クマ 佐久市内の猪 出没等が連日報道されました。有害獣は増えるばかりだ、自分も有害獣駆除に参加しているのだがやはり最後は自己防衛でしかないんだな～

原稿を寄せてくれた皆さん ありがとうございます。
—鈴木—

会報『ちくま』第48号 2013/1
 発行者 (社)長野県建築士会 佐久支部
 情報広報委員会
 事務局 〒385-8533 佐久市跡部65-1
 佐久地方事務所内
 TEL 0267-63-8080
 FAX 0267-63-3330
 E-mail: ken8080@aba-saku.org
 支部 HP <http://www.aba-saku.org>
 印刷所 プリントショップ コスモス
 TEL 0267-54-8010



は平成25年7月中旬予定です。